

鹿島化学金属 株式会社

樹脂ボールベアリングで 独自性を築く

企画力
自信有
オンリー
ワン技術
試作可
小ロット



各種樹脂ボールベアリングを取り扱う

主な事業内容

各種樹脂製品の製造・販売、
各種機械部品の製造・加工・販売

主な取引先(納入先)

半導体製造装置、ウェハー、半導体製品などのメーカー、
医療機器メーカー、食品機械メーカー、大学・研究機関など

主な製品

樹脂ベアリング、セラミックベアリング、
チタンベアリング、プラスチック機械要素部品

業務内容 反骨精神で 新たな事業を開拓

鹿島化学金属は樹脂と金属の融合をめざし、樹脂製の機械要素部品の製造・販売を手がける。二代目となる鹿島祐二社長が引き継いでからは、ベアリング業界の中でもほとんど未開拓であった樹脂ボールベアリングの製造に乗り出す。「こんなオモチャ、売れるわけない」。当時、周囲からこう言われたと鹿島社長は振り返るが、「絶対に売れる」との信念で、ホームページの刷新や展示会での技術PRにより認知度の向上を図ってきた。こうした広報活動に加え、平成22年ごろから半導体の需要増が追い風となり、今では樹脂ボールベアリングの売上はベアリング事業の約6割を占める。

強み 大学と共同研究 ノウハウ生かし提案

樹脂ベアリングは無潤滑・無給油で使用することができ、かつ水や薬品に強く、軽量、非磁性、絶縁性といった特徴を持つ。また、素材となる樹脂の構造や特性などにより機能が変化する特性を併せ持つ。同社はこうした樹脂ベアリングのノウハウに関して他社の

追隨を許さない。トライボロジーの研究で知られる富山大学の木田勝之教授との共同研究を通じて200本超の論文の実績があるほどで、このような豊富なノウハウにより顧客ニーズに応じた樹脂ベアリングを提案できる。

製品PR 広報を強化し 知名度向上をめざす

同社は「KASHIMA2025」をキャッチコピーに掲げ、令和2年から知名度向上をめざし、ホームページや広告媒体、通販サイトなどを通じて提案力を強化している。ホームページは制作会社と協力して、ひと目見て、樹脂ベアリングとは何か、何ができるかをイメージしやすく工夫。月1回の会議でアクセス状況などを分析し、日々進化し続けている。こうした取り組みが功を奏し、昨年にはグーグルの広告活用事例に取り上げられ、プロモーションビデオが作成された。広告やホームページは製品への興味付けとして活用し、実際に見て検討してもらうため展示会にも積極的に出展している。



スラスト荷重を受けるスラストボールベアリング



一般的な深溝ボールベアリング

社長あいさつ



代表取締役
鹿島 祐二さん

当社は「高品質な樹脂ベアリング」といえば鹿島化学金属」とお客様に言ってもらえるようノウハウを蓄えつつ、広報を強化してきました。樹脂ベアリングというオンリーワンの技術を強みとしていますが、お客様には樹脂ベアリングの強みだけでなく弱点も含めてご理解いただけるよう真摯に提案しています。

主な保有設備

■ 非公開

大阪
04 ISO 9001

住 所／〒555-0025
大阪市西淀川区
姫里2-9-21

T E L／06-6472-0556

F A X／06-6474-3630

創 業／昭和28年3月15日

設 立／昭和36年12月7日

資本金／1,000万円

従業員／16名



<https://kashima-kagaku.com/>